

2023 年度 事業計画

公1 我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業  
107,869,113 円（内、公益目的事業共通費用 77,971,060 円）

ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業  
11,426,000 円

(1)「学校のソトでうでだめし」プロジェクト		予算	5,046,060 円
事業名	テンダーさんの「その辺のもので生きる」オンライン講座		
事業の目的	<p>多様な生き方や価値観が尊重され、人びとの対等性が重視される社会の実現に向けて、当事者として行動する人が増えていくことをめざす。</p> <p>具体的には、社会の格差や環境などの問題を根本的に解決することをめざして考えられた技術を学ぶ場をつくる。技術を学び、実践していくプロセスを経て、身近な他者だけでなく自分が直接会うことのない遠い他者に自身が及ぼす影響に自覚的になり、他者と対等な関係を築き、自分自身と周囲、社会、世界の問題に当事者として関わり行動できるようになる人が増えていくことをめざす。そのために必要な知識、経験知、観察眼、ものごとを構造的に捉える力、交渉力、言語表現力なども同時に身につけていくようなプログラムを設計する。</p>		
2023 年度の目標	<p>2021 年 2 月から 2023 年 3 月まで実施したオンライン講座シリーズのレポートや報告書を制作し、講座で扱った具体的な内容、その背景にあるものの見方、考え方が、長期にわたって多くの人に共有され、役立つものとして残るようにする。</p> <p>1. レポートおよび報告書の制作 2021 年 2 月から 2023 年 3 月まで実施したオンライン講座シリーズのレポートや報告書を制作し、講座で扱った具体的な内容、その背景にあるものの見方、考え方が、長期にわたって多くの人に共有され、役立つものとして残るようにする。</p> <p>2. 講座の実施 引き続き、この講座の考え方がより多くの人たちに共有され、受け渡された技術や視点を用いて行動する人が増えることをめざす。また、過去の講座参加者が、実践を継続し、深めていくための機会とする。さらに、2024 年度以降、対面でのプログラムにつなげていくことも視野に入れていく。</p>		
事業内容	<p>1. レポートおよび報告書の制作 1) ウェブレポートの制作・完成 2022 年度中に実施した講座について、すべてのウェブレポートを完成させ、公開する。これにより、2021 年 2 月から 14 回シリーズとして実施したすべての講座のレポートをウェブ上で公開する。</p> <p>2) 全体報告書の企画と執筆・編集 上記ウェブレポートの完成後、引き続き、14 回シリーズのオンライン講座全体の報告書の制作に着手する。2023 年度は企画を決定し、執筆・編集作業を進める。2024 年度前半の完成をめざす。</p> <p>2. 講座の実施 14 回シリーズでオンライン講座は 2023 年 3 月末の最終回をもって予定通り終了するが、引き続き、シリーズで実施した内容をさらに深め、発展させた講座を数回実施する。テーマは検討中（交渉、システム思考、鉄工など）。</p> <p>また、英国ヨーク大学セミナー運営チームからオファーのあった、ヨーロッパの日本語教育関係者（および学習者）をおもな対象とする講座（交渉回で扱ったような内容）についても双方で協議のうえ実施に向けて検討を行なっていく。</p>		

	2024年度あるいは2025年度の対面での講座(ワークショップ)につなげていくことを視野に入れながら(新型コロナの感染状況を見極める)、さらに講座の内容を深め、海外からの参加も含めより多様な人たちの参加を増やしていく。	
主な講師	テンダー氏/環境活動家、ダイナミックラボ運営、一般社団法人その辺のもので生きる代表理事	
対象者・人数	上記2:国内外の中高校生~大人(右記載は、各回の人数) *講座で扱う内容によって人数は変動する予定	20~50人
その他の協力者	上記2の講座当日サポーター(グループサポートなど) *講座で扱う内容によって人数は変動する予定	2~10人(各回)
プログラムの公開の有無	特に予定なし。	
実施時期/回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記1-1): 4~8月</li> <li>・上記1-2): 9~3月(2024年度にかけて制作予定)</li> <li>・上記2: 7~3月にかけて3回程度実施(一つのテーマのボリュームが大きいので、1テーマを複数回で構成する可能性あり。例:システム思考を3回に分けて実施など)</li> </ul>	
実施形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オンライン</li> <li>▲対面(新型コロナウイルス感染の収束が見られ、かつ事業上の必要性が生じた場合のみ)</li> </ul>	
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主催</li> <li>▲その他(講座のうち1回を、ヨーク大学セミナー運営チームによる協力あるいは共催で実施の方向で協議中)</li> </ul>	
参加費等	中高生:無料~1500円程度、大学生:無料~2,000円、大人:1,000~3,000円 *金額は各講座の材料費とその送料の確定後に決定	

(2) インタラクティブ地球儀「SPHERE」の地球講座		予算	4,818,940円
事業名	地球講座 2023 「The LIVE」「The CORE」		
事業の目的	世界が抱える課題は複雑さを増しており、困難に直面している地域の人や関心の高い人だけで解決することができない。国や地域をこえて連帯するための「地球大の関係力」*が現代を生きる私たちに必要となっている。 そこで、世界の青少年の「グローバル」に対する理解を国際から地球へと更新し、地球の目線を持って異なる他者とのつながりを体験する機会を提供する。 *地球大の関係力: 地球上の隣人(人類にかぎらない)と融通したり共有したり協力したりする関係性の力		
2023年度の目標	地球上に起きている様々な現象・状況を人類の活動とその影響力にも着目しながら共有し、課題解決に向けた創意工夫などの発想や思いを交換する機会を経て、地球大の関係力に意識的になれるようになることを目標とする。 SPHEREを活用し専門的で広がりのある学びを体験する。また、参加者自身の興味関心や課題意識が刺激され、より明確になるため、状況・環境への慮りが養われ、多様な他者との関係を支えるあらたな文脈(地球の文脈)が生まれる。		
事業内容	地球規模の課題について、世界各地の参加者が、それぞれの地域の情報、経験などをわかちあひながら、どのようにしたらそれらの課題を乗り越えることができるか、共に考え向き合っていくような場をつくる。 1. 地球講座 2023「The LIVE」 「地球の目線を体感し、共在感を醸成する」(60名)		

	<p>参加者がそれぞれの地域から日の入りの中継をした後に、自分の地域に起きた自然現象などに関するニュースを報告し、その現象について、専門家が SPHERE を活用して解説することで、地球の目線で世界を見ることや参加者同士で感じたこと考えたことを共有する機会を提供する。</p> <p>意見交換が活発になる工夫として、講座の前に、身近な暮らしの中の気づきや発見を促したり、資料を集めたり考えたりできるようなアンケートを実施する。</p> <p>また、「The CORE」への参加を促す機会とする。</p> <p>2. 地球講座 2023「The CORE」</p> <p>「探索的対話を通じて未来を共創する」(15名)</p> <p>専門家およびファシリテーターのサポートを受けながら、地球規模の課題について得た知識や疑問などを出し話し合い、課題を乗り越える方法や解決に向けた具体的な提案を固定観念にとらわれない自由な発想を活かしてプレゼンテーションする。</p> <p>* The CORE に参加する中高生には以下に掲げた項目などを中心に、十分な情報共有や話し合いの時間をもてるように、事前に SNS(Slack) を活用して自分なりの問題意識をもつことができるよう準備期間を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地球の課題に関連した質問</li> <li>• 身近な暮らしの中の変化(写真や動画など)</li> <li>• 資料集め(気になるニュースや書籍、レポートなど)</li> <li>• 解決する課題を考える(どんな現象や課題をどのように解決するか)</li> </ul>	
主な講師	竹村眞一氏 (SPHERE 開発者、京都芸術大学教授、NPO 法人 ELP(Earth Literacy Program) 代表)	
対象・人数	The LIVE 国内外の中高生	60 人
	The CORE 国内外の中高生	15 人
その他の協力者	グループワークファシリテーター3人、学生の逐次通訳6人(3言語各2人)	9人
プログラムの公開の有無	有り。	200 人
実施時期/回数	地球講座「The LIVE」 6/21(水) 18:00-20:30 (予定) 地球講座「The CORE」 9/23(土)、13:00-17:00 (予定)	
実施形態	オンライン	
実施主体	主催	
参加費等	無料	

(3) アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動	予算	1,561,000 円
事業内容	関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。	

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発・提供事業  
719,000 円

(1) ときめき取材記ウェブサイトの運営		予算	309,000 円
事業名	ときめき取材記ウェブサイトの運営		
事業の目的	<p>「ときめき取材記」プロジェクトは、国内外の大学生を中心に 2016 年度から 2021 年度にかけて、学生の疑問や知りたいという思いからテーマを挙げ、そのテーマに関係している人を探してインタビューし、原稿にまとめ、ウェブサイト「ときめき取材記」に掲載するところまでを一連の活動として実践してきた。参加した学生は、インタビューとじっくり向き合うことで、自分と異なる意見や考えを聞き、相手のことばを受け止め、インタビューをまとめた記事をウェブサイトで発信することで、表現力を身につけるとともに発信することの責任感を感じてもらうことを目的としている。</p>		
2023 年度の目標	<p>ときめき取材記プロジェクト賛同者が中心となりプロジェクトとウェブサイトが自立運営できるよう、2023 年度は新たなグループ結成のサポートを行うなど道筋をつける。なお、現在 TJF で運営しているウェブサイトについては、2024 年度に自立運営に移行することをめざす。</p>		
事業内容	<p>引き続きウェブサイト運営を行いながら、2024 年度に TJF 外部にウェブサイトに移行することを目標に、2023 年度は以下のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Slack でつくったグループを中心にネットワークの維持、活性化を行うとともに、新たにウェブサイト運営するグループ結成のサポートを行う。</li> <li>・ウェブサイトの掲載記事検索のためにタグの整理を行う。</li> <li>・外部へのウェブサイト移行に向けて情報収集を行う。</li> <li>・TJF がもっている資料や実践した先生方に提供してもらった資料の整理を行う。</li> <li>・新規取り組み校の実践事例(やさしい日本語を使った取り組み)を執筆してもらい、報告書に追加する。</li> </ul>		
対象・人数	これまでのワークショップ参加者等	20 名	
実施時期・回数	年間を通じて実施		
実施形態	オンライン		
実施主体	主催		
参加費等	無料		

(2) イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	410,000 円
事業内容	<p>関連学会・各種団体等への会費、職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。</p>		

ウ. 多様な言語や文化の背景をもつ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業  
9,997,058 円

(1) 多言語・多文化パフォーマンス合宿		予算	6,500,000 円
事業名	ひろしま PCAMP2023		
事業の目的	<p>多文化化が進む日本国内において、外国につながる子どものなかでも特に高校生の年代の人が受けられるサポートは小学校、中学校と比べると多くない。高校生年代では、たとえ入学できたとしても様々な問題が依然解決されていないため、学習面や進路などの面で、様々な困難に直面している。また、同じ学校に通っていたとしても、孤立感を深めたり、他の生徒と交流する機会も十分あるとは言えない。そこで、生徒たちがお互いのことをより深く知っていくことができるよう、表現活動をとおして対話や協働を体験するような機会を提供する。</p> <p>また、国内外のさまざまな背景をもつ同年代同士が交流できる場にもすることで、より多様な人たちと対話をし互いの理解を深める体験の機会を提供する。</p>		
2023 年度の目標	<p>ひろしま PCAMP2022, 2023 で得た経験、知見を、広島県での継続実施と広島県以外の地域での展開へと進める道筋をつける。そのために必要な協力団体、協力者との信頼関係を構築し、協力体制が整うように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会による運営体制を確立し、2022 年は安芸高田市、2023 年は呉市、2024 年は福山市と広島各地を巡回開催できる布石とする。これにより、1)各年毎に中心的な受け入れ地域とともに、開催経験した地域、これから開催を予定する地域とも協力体制をつくり、地域間連携を強化する。2)各地域での開催をサポートし、それぞれの地域内の協力者や団体との連携を強めてもらうよう働きかける。3)広島県内の新たな地域や活動団体にも PCAMP を知ってもらい、関わりをもってもらうことで、将来の受け入れ候補地を増やしていく。</li> <li>・実行委員会及びその事務局と協力し、市民活動支援、地域多文化共生ネットワーク支援、芸術による地域振興などを対象とする助成金や協賛金の獲得に努める。</li> <li>・2022 年のプログラムのプラッシュアップを図りつつ、参加経験者からサポーターを募り、現地の人にファシリテーターを依頼するなどしながら、今後のプログラムを支えてくれる人材の育成をめざす。</li> <li>・5 月に TJF が「パフォーマンス合宿公開報告会及び体験ワークショップ」を「ひろしま PCAMP2023」と同じ会場で開催することも含め、本番開催についても十分に周知できるよう地域の協力を得られるよう務める。</li> </ul>		
事業内容	<p>1. ひろしま PCAMP2023(夏合宿)の実施 参加者一人ひとりが持つ言語、文化、経験、個性を尊重し、それを自由に、積極的に、またよりよく表現できるようにファシリテーターであるアーティストを中心に、運営チーム全体が伴走しながら、以下の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者がお互いを知り、コミュニケーションをとり、仲良くなるためのシアターゲーム</li> <li>・参加者一人ひとりの経験や感性を表現するための演劇ワークやダンスワーク</li> <li>・参加者がペア、グループ、チームで関わり、話し合い、協力しながら「I am from」をベースにダンスと組み合わせたパフォーマンス作品をつくって発表</li> </ul> <p>2. 「パフォーマンス合宿」公開報告会及び体験ワークショップ</p> <p>1) 第1部「公開報告会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者による経緯・成果・課題の説明</li> <li>・参加高校生を含め、5 年間さまざまな立場で PCAMP に関わった人たち(ファシリテーター、参加経験者、サポーター経験者、保護者など)のインタビュー映像上映</li> <li>・PCAMP の交流活動の様子や創作作品のダイジェスト映像上映</li> <li>・ひろしま PCAMP を地元で支えてくれた人たちのトーク</li> <li>・来場者との質疑応答</li> </ul> <p>2) 第2部「体験ワークショップ」 公開報告会の来場者から希望者を募り、「ひろしま PCAMP2022」のプログラムの一部を実際</p>		

	<p>に体験してもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初対面でもすぐに仲良くなれるウォーミングアップゲーム</li> <li>・アメリカで開発された多文化演劇教育プログラム「I am from」の創作活動</li> </ul> <p>3. 次年度に向けての準備          広島の次に開催できる地域を調査し、ネットワークを構築していく。</p>	
主な講師・ファシリテーター	柏木俊彦氏／演出家・舞台俳優 森永明日夏氏／舞台俳優・ティーチングアーティスト 田畑真希氏／振付家・ダンサー サブファシリテーター2名（一般社団法人舞台芸術制作室無色透明より派遣予定）	
対象・人数	1. 広島県に在住または通学している多様な背景をもつ高校生及び高校生にあたる年齢（15～18歳）で、外国にルーツやつながりを持っている人、および多様な言語的文化的背景を持つ同世代と交流したい人	25～30人
	2-1) 中学生以上から一般社会人まで 2-2) 第1部参加者から募集	第1部 150人 第2部 20人
その他の協力者	1. 参加者をサポートする運営補助を「ひろしま CAMP2022」の参加経験者より募集	5人
	2. 「ひろしま PCAMP2022」の参加経験者より体験ワークショップのサポーターを募集	5～10人
プログラムの公開の有無	1. 発表会の見学者を募集し公開する	150人
	2-1) 第1部は一般公募 2-2) 第1部参加者から募集（体験に参加しない／できない人は見学可）	第1部 150人 第2部 20人
実施時期/回数	1. 2023年8月3日（木）～6日（日） 2. 2023年5月28日（日）	
実施形態	対面（新型コロナウイルス感染の収束が見られた場合のみ）	
実施主体	主催：公益財団法人国際文化フォーラム（TJF） 共催：呉市国際交流協会 後援：呉市、広島県教育委員会 協力：安芸高田市国際交流協会、こどものひろばヤッチャル（東広島市）、東広島市教育文化振興事業団、ひまわり21（呉市）、びんご日本語多言語サポートセンターびるど（福山市）、ワールド・キッズ・ネットワーク（呉市）、一般社団法人舞台芸術制作室無色透明（広島市） 運営：ひろしま PCAMP 実行委員会	
助成金・参加費等	1) ひろしま PCAMP 実行委員会として申請 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人マツダ財団に助成申請中 50万円</li> <li>・公益財団法人かめのり財団に助成申請予定 50万円</li> </ul> 2) その他協賛など <ul style="list-style-type: none"> <li>・呉市の後援により会場費3割減免決定済み、宿泊費免除予定</li> <li>・呉ロータリークラブ、呉青年会議所に協賛申請予定</li> </ul> 3) 参加費を得る場合の金額設定など（1のプログラムのみ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅から活動会場への往復の交通費は各参加者が負担</li> <li>・食費の一部として 5,000円／人</li> </ul>	

(2) 新たな表現を探るオンライン交流		予算	2,955,000 円
事業名	オンライン交流 集まれ！写真の森		
事業の目的	<p>現在オンライン上での活動は、オフラインの代替ではなく、もう一つの重要な世界として存在している。また、対面でのコミュニケーションが苦手な中高生も一定数おり、オンラインでの交流ならハードルが低く参加しやすいと感じる人たちもいる。</p> <p>この事業では、海外の日本語学習者と国内の多様な背景をもつ高校生を対象に、協働で作品を作ることを通じて、互いを知り、対話をし、考えの違いを調整し、共通の目標を達成する経験をしてもらう。</p> <p>また、オンライン環境の交流をより深める方法を探るとともに、心理的安全性の高い場をつくれるよう配慮し、高校生が安心して参加できるようにする。</p>		
2023 年度の目標	<p>多様な背景を持つ高校生たちが、それぞれが撮った写真を媒体として交流する場をつくることで、多様性や文化の違いに触れ、相手の文化だけではなく、自分の文化にも気付く機会をつくる。</p> <p>写真という言葉以外の媒体を通じて、より自由に自分自身を表現すると同時に、それぞれが写真に表現したことを持ち寄ることで、あらたな表現を模索し作品を創造する。</p>		
事業内容	<p>1. 参加者それぞれが同じテーマで撮った写真を持ち寄り、写真を見せながら紹介し、撮った理由や思いなどを伝える。</p> <p>2. 少人数のチームを構成し、持ち寄った写真と込められた思いを共有し、参加者同士の表現が作用しあって新たな表現が生まれるような場づくりを行い、作品を発表する。作品づくりのテーマは「わたしたちの伝えたい思い」など物語性のあるものとする。</p>		
主な講師・ファシリテーター	<p>ファシリテーター：森永明日夏氏(ティーチングアーティスト)</p> <p>講師：1-2 名程度(フォトアーティストなど)</p>		
対象・人数	国内外の高校生年代の人	20 人	
その他の協力者	交流サポーター(プログラム経験者の高校生、大学生など)	4 人	
プログラムの公開の有無	有り。 オンライン発表会の観覧	50 人	
実施時期/回数	2024 年 1-2 月		
実施形態	オンライン		
実施主体	主催		
助成金	公益財団法人三菱 UFJ 国際財団の助成金(申請中)		

(3) ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	542,058 円
事業内容	職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		

エ. 広報事業  
7,755,995 円

(1) 財団の広報		予算	6,066,400 円
事業の目的	TJF の活動趣旨と各事業について、関心をもつより多くの人たちに情報が届くよう発信活動を行う。		
2023 年度の目標	TJF の活動趣旨および各事業についての情報が対象とする層に届くよう、情報発信と環境整備を行う。		
事業内容	<p>1. 情報発信</p> <p>1) 事業報告書『CoReCa』の発行(4500 部)および配布 2022 年度の事業を報告書にまとめ、TJF 事業の支援者、協力者、参加者、事業に関心をもつ人たちに広く配布する。また、PDF 版をウェブサイトに掲載する。</p> <p>2) その他の媒体による情報発信 ウェブサイト、メールマガジン「わやわや」、SNS を通じ、TJF の活動趣旨と各事業について、継続的な情報発信を行う。</p> <p>2. データ活用のための環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2022 年度にウェブサイトが発信した情報について、どのようなアクセス傾向が見られたかデータをまとめ、事業担当者が今後の事業の広報に活用できるようにする。</li><li>・ウェブサイトの事業の告知、報告ページについて、各事業担当者が随時アクセス情報を利用できるようにし、今後の事業の広報に役立てる。</li></ul>		

(2) デジタル媒体を使った広報のサポート		予算	1,289,595 円
事業内容	デジタル媒体を使用した情報発信が円滑に行われるよう、IT 器機管理や各種アプリケーションの利用など環境整備やテクニカル面でのサポートを行う。		

(3) エの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動		予算	400,000 円
事業内容	職員の研修、新規事業開拓のための調査研究に関する費用等を計上する。		